

令和4年度 確かな学力向上推進プラン

江戸川区立清新第二中学校

学力向上に向けた目標値																		
成果指標：都学力調査における 到達目標値																		
教科	平成30年度 結果		平成31年度 目標値		平成31年度 結果		令和2年度 目標値		令和2年度 結果		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%
国語	26問	70.7%	20問	75%	24問	67.2%	12問	76%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%
社会	28問	59.9%	18問	65%	27問	45.6%	7問	59%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%
数学	28問	49.7%	16問	55%	23問	49.5%	10問	59%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%
理科	26問	50.5%	15問	55%	25問	44.8%	8問	56%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%
英語	26問	56.4%	16問	60%	24問	51.4%	7問	61%	問	%	問	%	問	%	問	%	問	%

学力向上に向けた取組				
論点	第1学年	第2学年	第3学年	成果指標及び数値目標
論点1 基礎的・基本的事項の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>長期休業中の自習教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>週テスト毎週の実施</li> <li>長期休業中の自習教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>週テストの毎週実施</li> <li>長期休業中の自習教室の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週テストの合格者の割合を80%以上にする。</li> </ul>
論点2 学習規律の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業規律の徹底</li> <li>忘れ物防止対策としての「タイムくん」の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業規律の徹底</li> <li>忘れ物防止対策としての「タイムくん」の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の授業規律の徹底</li> <li>忘れ物防止対策としての「タイムくん」の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の帰りの会で日直による反省を発表する。</li> </ul>
論点3 生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タイムくん」(生活記録)の活用</li> <li>定期考査2週間前より学習計画表の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムくん(生活記録)の活用</li> <li>定期考査2週間前より学習計画表の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タイムくん」(生活記録)の活用</li> <li>定期考査2週間前より学習計画表の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活記録に記載されている事項を参考にして、情報を得て兆候を把握する。</li> </ul>
論点4 家庭学習の指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>タイムくんによる家庭学習時間チェック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>タイムくんによる家庭学習時間チェック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出</li> <li>「日記」による家庭学習時間チェック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートなどを提出させ、提出率による指導を行う。</li> </ul>
論点5 言語に関する指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等で少人数での学び合いの学習活動の活用</li> <li>教科を問わず「書くこと」の活動の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、少人数での学び合いの学習活動の活用</li> <li>日直による今日一日の様子の発表</li> <li>教科を問わず「書くこと」の活動の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等で少人数での学び合いの学習活動の活用</li> <li>「日記」指導</li> <li>教科を問わず「書くこと」の活動の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の実施・発表をさせることで、効果を検証</li> </ul>
論点6 教員の学習指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修等による研究授業の実施</li> <li>教科部会の実施</li> <li>教員同士の授業の参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修等による研究授業の実施</li> <li>教科部会の実施</li> <li>教員同士の授業の参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修等による研究授業の実施</li> <li>教科部会の実施</li> <li>教員同士の授業の参観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート、管理職との面接、自己申告書面接を実施。</li> </ul>

教科	各教科の授業改善に向けた指導の重点		
	第1学年	第2学年	第3学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着のため、小テストを毎時取り入れる。また既習事項を振り返り活用する時間を意識する。</li> <li>目的に沿って比較したり考察したりする力を高めるため、目的を明確にした話し合い活動を行い、ワークシートやホワイトボード等を用いて視覚化する。</li> <li>単元ごとに学習内容を振り返り、自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成させた意見文を、読み合い、他者の意見から新たに気づかされたことや考えさせられたことについて自分の意見をまとめる活動を重点とする。</li> <li>基礎学力定着のため、週一回短い文章づくりや、漢字の書き取りに触れさせ、小テストで振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着のため、小テストを毎時取り入れる。また既習事項を振り返り活用する時間を意識する。</li> <li>目的に沿って比較したり考察したりする力を高めるため、目的を明確にした話し合い活動を行い、ワークシートやホワイトボード等を用いて視覚化する。</li> <li>単元ごとに学習内容を振り返り、自己評価する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な語句を調べたり、説明したりする課題に取り組み、基礎知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図やグラフなどの資料を読み取る課題に取り組み、資料から読み取る力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合い活動での意見交換などを通して、多様な視点、効率と公正の観点、社会的な見方や考え方を身に付けさせる。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>数についての理解を一層深め、文字式による表現や処理の仕方を理解し、反復して練習をすることで、知識の定着を図る。図形領域では、基本的な概念や性質について理解をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考力や表現力を必要とする課題に取り組み、自分の考えを相手に伝わるように説明したり、筋道をたててノートに表現する機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都の学力調査、全国学力調査、到達度テストにおいて課題のある数量や図形の問題を重点的に取り組む。そして、生徒の実践力を高め、進路決定につなげる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元において、必ず実験や観察を実施し、生徒の知的好奇心や探究心を育みながら、実験器具や観察の仕方の基礎を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果や観察結果から、何が読み取れるかなど、考察のしかたを育ませ、思考力を育成する。また、考えたことを発表させ、表現力も育成する。表やグラフの書き方を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果からよみとられたことを、グループで話し合い、表現力や論理的な考え方を育成する。また、自ら課題を発見できるように、他のグループの発表を聞きよく考える活動を計画的に行う。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味関心を引き出せるよう教材を工夫する。5分間鑑賞を行い、幅広い時代の音楽に触れる機会を増やし、様々な音楽に親しむ態度を育てる。ことばとリズムを結びつけた記譜指導を行い、器楽や創作に必要な基礎的な力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本民謡の鑑賞を通じて、曲種に応じた発声について理解を深めたり、民謡音階の雰囲気を感じながら創作活動を行ったりする。合唱表現においても、基礎的な発声法について指導し、表現を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱表現において、歌詞の内容と音楽を関連させるなどして、さらに表現を深める。創作では、即興表現を取り入れた表現を行う。ギターを用いて、器楽と鑑賞を関連させながら学習する。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞の活動において、自己の作品についての制作意図や感想などを「鑑賞カード」に記入させるとともに、「自分の考えを話す活動」を積極的に取り入れることにより、言語活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイディアスケッチの指導を充実させ、個に応じた目標を設定させることにより、制作意欲や完成度をより高めようとする資質を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の習得した知識や技能の積極的な活用を促し、意図に応じて自分独自の表現方法を追及させる。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動に加え、補助運動やストレッチを行うことで、体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意欲の向上のために、視聴覚教材を使用する。タブレットを使用した授業を行い、自分たちで振り返りが行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年で学んだことを生かし、自主的に活動ができるようにする。</li> </ul>
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な道具・機械の使い方を学習する。</li> <li>安全に気を付けて作業することを身につける。</li> <li>家族や衣食住について考え、人との関わり方や生活の実践につながる知識・技能を習得できるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒達で教え合い、よりよい作品に仕上がるよう意欲を高める。</li> <li>実習を通して学んだ内容を体験的に理解させ、興味・関心を高めて表現力・創造力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の中での新しい技術に触れることにより、興味理解を深める。</li> <li>家庭に関する環境についての課題に取り組み、持続可能な社会に向けて取り組もうとする意欲の向上を図る。</li> </ul>
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内における活動を充実させ、質問に対し、プラス1で答えることができるようにコミュニケーションに対する意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動で得た内容を書き出し、相手のことについて発表することができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことや自己と向き合い、その結果をプレゼンテーションすることができるようになる。</li> </ul>